

会議等報告書

標 題	第1回 医療的ケア児等への支援検討プロジェクト
日 時	令和6年5月9日（木）10時00分～12時00分
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 D会議室
出席者	<p> ■ 茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会 生活相談室とれいん 榎園 貴子 ■ 神奈川県立茅ヶ崎支援学校 白井 和子 ■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 遊びりパーク Lino' a 茅ヶ崎 大郷 和也 ■ 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 ムーブメントリラ菰園 大鷲 敬 ■ 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 マザー湘南 訪問看護そよかぜ 水野 美奈子 ■ manaの会 斉藤 美由紀 ■ manaの会 小山 陽子 ■ 医療的ケア児等コーディネーター 療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田 純子 □ 医療的ケア児等コーディネーター ちがさきの木魂 安田 のり子 □ 社会福祉法人翔の会 児童発達支援センター うーたん 日高 義史 □ 茅ヶ崎市教育委員会教育総務部学校教育指導課 大坪 督 ■ 茅ヶ崎市こども育成部保育課 松尾 岳彦 ■ （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齋藤 優子 ■ （事務局）医療的ケア児等相談支援センターノア 瀬川 直人 ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 大八木 元 ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 荒井 優広 ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 副主幹 大畑 純子 ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 副主査 鈴木 敦之 ■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主任 中村 知里 </p>
<p>司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 荒井課長補佐 書記：障がい福祉課 中村</p> <p>1 出席者各自より、自己紹介。所属並びに担当の共有。</p> <p>2 医療的ケア児等相談支援センターノアについて</p> <p>（1）茅ヶ崎市が医療的ケア児に関する窓口を設置。社会福祉法人碧にてノアを設置した。相談支援、コーディネーターのとりまとめ、行政との連携、湘南東部圏域での会議参加等を担う。関係者との連絡調整業務も行う。</p> <p>（2）質疑応答</p> <p>県で設けている連絡先との分別は。県に連絡した場合は、県から茅ヶ崎市に報告が入るのか。 →ノアは茅ヶ崎市在住の方を対象としている。県からノア（茅ヶ崎市）に報告されるものと考えている。</p> <p>3 本プロジェクト発足の経緯</p> <p>（1）プロジェクトで協議すること</p> <p>課題解決策や支援内容を検討するのではなく、社会資源の現状を共有した上で課題を抽出する場とした。それらに対する解決方法、対応について協議する場をどのように設置すべきなのか、その場のメンバー構成をどうするのか、そもそも設置する必要があるのかを検討する場としたい。</p> <p>各機関により把握している社会資源は異なる。まずは、把握している社会資源の情報共有を行い、課題の抽出作業を行う。その後、市として協議する場の設置の可否の検討、どのように設置していくかを話し合っていく。</p> <p>（2）質疑応答</p> <p>ア 今年度の市の取組を知りたい。 →今年度の市の取組は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置（ノア）：4月から開設している。 ・医療的ケア児等コーディネーターの配置：県の養成研修を受け登録した方に活動していただく。活動内容は課題抽出・連絡会参加・普及啓発等。とりまとめはノアが行う。 ・在宅レスパイト事業：訪問看護利用後の時間、延長して利用したい場合に市から委託料を支払い行うも 	

の。本事業開始時には情報提供をしていく。

- イ 最終目標を立てているわけではなく、今後の体制を話し合う場ということでのよいのか。出てきた課題の抽出、その対応策まで検討するのか。

課題の解決策を検討する会議体を設置するか否かが決まっていなければ、実行性のあるプロジェクトにならないのではないのか。

→社会資源の把握、支援体制をどうすべきかを協議していく場としたい。課題の解決策を検討する会議体の設置の要否、どのように設置していくかを議論する場としたい。

現時点で次の展開として会議体を設置すると明言できないため、曖昧な説明となっている。より実効性の高いものをつくるには、各機関からの意見が集まった方が良くと考えており、まずは各機関が把握している情報の共有としたい。

- ウ プロジェクトチームは任期があると考えている。プロジェクトメンバーが会議体へ移行することや、プロジェクトが解散することがあるということなのか。

→そのとおりである。

- エ（意見）プロジェクトを進めていく中で具体性がみえたら、予算要求等のタイミングも意識してスピード感をもって来年度の事業として始めてほしい。

4 課題抽出と整理に向けたシートについて

(1) シートの説明

各機関が持っている情報を出すこととする。本日のシートは仮のものであり、今後カスタムしていきたい。本日はグループワークで項目の取捨選択・追加を話し合い、発表する。

本日のグループワークで話し合った結果を反映したシートを市にて作成する。次回のプロジェクト日までにそのシートに該当する社会資源は何かを各自記入することとし、持ち寄りたい。

(2) 質疑応答

- ア シートの完成版は何に使うのか

→プロジェクトの共通認識とする。それぞれの支援者が情報収集する土台となればよいと考えている。

- イ なぜこのシートを使用するのか

→社会資源を把握した方がよいのではないかという考えから発案している。

- ウ シートで資源の状況、不足を抽出し、その課題を協議する会議体を設置するかを検討していくという考えでよいのか。

→そのとおりである。

5 グループワークの発表

(1) 1グループ

- ア 災害時の項目：必要な機器、福祉避難所（どこをみれば情報がわかるのか）（医療機器、福祉避難所）

- イ 緊急時の項目：体調悪化時等に対応できるもの

- ウ 障害福祉サービス

- エ 生活圏の情報（茅ヶ崎市～圏域）

- オ 医ケア児等が通学通園できる場所：学校名、保育園、幼稚園名

- カ 医ケア児等が相談できる相談支援事業所

- キ 利用できる拠点を細分化：児童発達支援、重度訪問介護、居宅介護、日中一時支援、放課後等デイサービス等

- ク 短期入所施設：医療型、福祉型、歩ける医療的ケア児者が利用できる施設

- ケ 医療的ケア児者の茅ヶ崎のニーズを把握する

(2) 2グループ（意見）

- ア 0歳から18歳まで、ライフステージにより必要なものは変わってくる。相談できる場所・医療を受けられる場所が必要である。

- イ 幼稚園から小学校につながるための整備が必要である。

(3) 3グループ（意見）

フォーマット案だと様々なケースを想定して多くの情報は挙げられるが、情報の整理が難しい。2015年度に市自立支援協議会のこどもに関する部会で作成した「子育て応援ガイド☆ちがさき」等を参考にして、年齢別・ライフステージ別に、市内で受けられるサービスについて情報整理していくと、利用する当事者側や紹介

する支援者側からも、課題抽出もしやすいのではないか。

6 次回までの流れ・グループからのご意見への回答

本日のグループワークで話し合った結果を反映したシートを市にて作成する。次回のプロジェクト日までにそのシートに該当する社会資源は何かを各自記入することとし、持ち寄りたい。

シートを当事者や支援者へ見せることや、どのようなシートが使用し易いのかということより、まずは資源の抽出からしていきたい。ただし、最終的にライフステージ別に情報整理をした方がよいのか等は検討していく。

医ケア児が利用できる資源が地域(市や圏域)にどれだけあるのかを整理したい。プロジェクトの構成員で力を合わせて情報を集めるため、みなさんの知っている情報を落としこむものであり、シートすべてを埋めてこなければならないということではない。

7 その他質疑応答、ご意見

(1) サービスごとに項目を分けた方がその後の課題解決に結び付けやすいのではないかと考えるがどうか。また、医ケア児等といっても個別性により利用できる場所、できないところがあるがどのように考えていくか。

→個別性に対応できるかはまだ検討せず、まずは項目別で抽出し、のちにライフステージ別に分類していきたい。

(2) 医ケア児等の取り巻く環境について、医療福祉系だけでなく保育系も見えると議論の土台が見やすいため、サービスでまとまっているとわかりやすいと感じた。

(3) (圏域ランチとしての活動を踏まえて)このプロジェクトの構成員は福祉サービスに関連する方が多いが、医ケア児は福祉サービスを使用しない人もいる。そういった人が相談できるようにということを考えていくことも重要である。また、支援者の視点と当事者家族の視点は異なるということにも留意する必要がある。

次回日程:7月11日